

第7節

中東・アフリカ

本白書の第1部第2章では、新興国の金融リスクについて分析をした。2018年は、トルコやアルゼンチンを始めとする一部の新興国で通貨の大幅な下落が起こるなど、新興国発の金融危機への懸念が大きく取り

上げられた年であった。本節では、新興国の金融リスクで話題となったトルコ、南アフリカを中心に経済動向について見ていきたい。

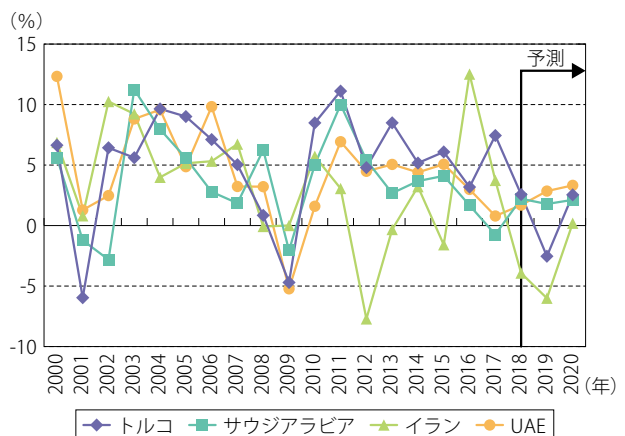
1. 中東

(1) 中東諸国の GDP

まず、中東諸国<sup>169</sup>の経済を概括する。2017年の中東諸国のGDPの構成を見ると、1位のトルコ、2位のサウジアラビア、3位のイランの3か国で中東諸国のGDPの58%と過半数を占めている(第I-3-7-1図)。

中東主要国の実質GDP成長率の推移を見ると、ITバブルが崩壊した2001年に伸びが減速又は縮小し、世界金融危機の2009年には縮小する国が相次いだ(第I-3-7-2図)。2018年の実質GDP成長率は、2.0%と2017年の1.8%から緩やかに加速しており、2018年のトルコ・ショックともいわれるトルコ発の金融市場の動揺による他の中東諸国への影響は限定的であったと考えられる。

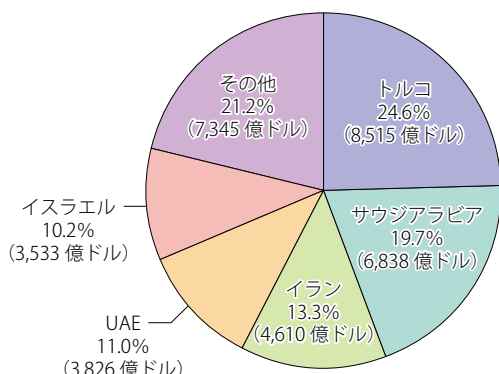
第I-3-7-2図 中東主要国の実質GDP成長率の推移



備考：サウジアラビアのみ予測は2017年から。  
資料：IMF WEO, April 2019から作成。

第I-3-7-1図

中東諸国におけるGDPシェア (2017年)



資料：国際連合「Nation Accounts Main Aggregates Database」から作成。

(2) トルコの経済動向

① GDP

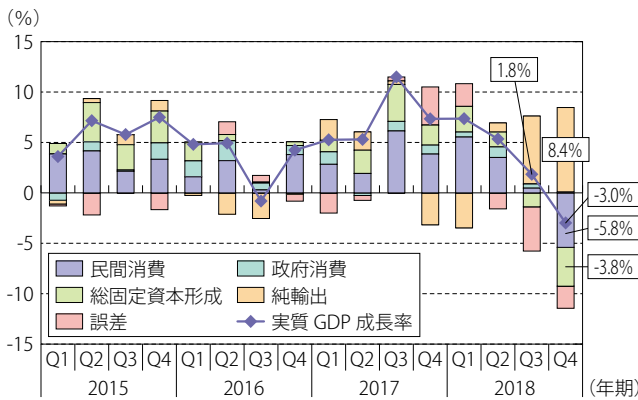
トルコの2018年第4四半期実質GDP成長率(前年同期比)は、トルコ軍のクーデター未遂事件でマイナス成長となった2016年第3四半期以来、9四半期ぶりにマイナス(▲3.0%)に転じた(第I-3-7-3図)。2018年8月に米国がトルコに制裁を課したことを契機にトルコ・リラが暴落、8月13日には6.859リラ/ドルの底値をつけ、年初来下落率は81%となった<sup>170</sup>。この急激な通貨下落はトルコ・ショック<sup>171</sup>といわれ、その後のトルコ経済に大きな打撃を与え、GDP成長率は2018年第1四半期の7.4%から第4四半期には▲3.0%まで下落した。トルコ経済を牽引してきた民間消費や固定資産形成が大きく減少し、それぞれ▲5.8%、

<sup>169</sup> 本項では中東を外務省のHPに併せて、アフガニスタン、アラブ首長国連邦、イエメン、イスラエル、イラク、イラン、オマーン、カタール、クウェート、サウジアラビア、シリア、トルコ、バーレーン、ヨルダン、レバノンの15か国を指す。

<sup>170</sup> 通貨下落の詳細については第1部第2章第1節を参照。

<sup>171</sup> トルコ・ショックによる金融市場への影響については、第1部第2章第1節新興国の金融リスク4.(2)を参照のこと。

第 I-3-7-3 図  
トルコの実質 GDP 成長率と需要項目別寄与度



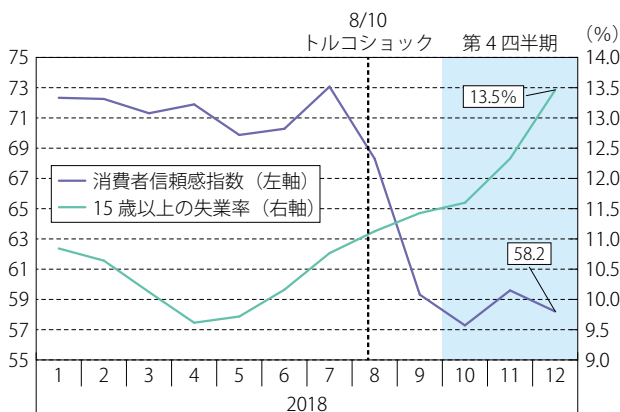
資料：トルコ統計局、CEIC Database から作成。

▲ 3.8%と GDP 成長率の減少に大きくマイナス寄与した。一方、純輸出が同年第 2 四半期からプラスに寄与しており、第 4 四半期には 8.6%とプラス寄与度が拡大している。この純輸出の拡大は、通貨安が輸出にプラスに寄与することも大きな要因と考えられる。

② トルコ・ショックによる影響

トルコ・ショックによる通貨の大幅下落の影響は、消費者信頼感指数や雇用にも広がった。消費者信頼感指数は、同年 7 月をピークに大きく下落し、12 月には 58.2 まで下落した。また、失業率は、同年 4 月頃から上昇に転じており、12 月には 13.5%まで上昇した (第 I-3-7-4 図)。このように、トルコ・ショックによる金融市場の動揺はトルコの実態経済にまで大きく影響を及ぼしたといえる<sup>172</sup>。

第 I-3-7-4 図 失業率と消費者信頼感指数



資料：トルコ統計局、CEIC Database から作成。

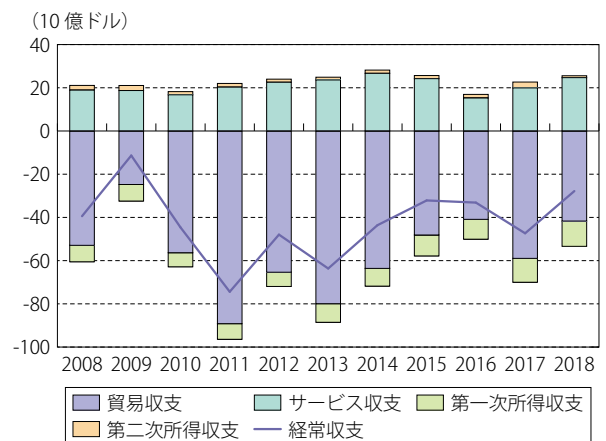
③ 経常収支

次にトルコの経常収支の推移を見ていく (第 I-3-7-5 図)。トルコの経常収支は、恒常的に赤字が続いており、中でも貿易収支の赤字が経常収支の赤字の大半を占めている。

一方、サービス収支は黒字が続いている。サービス収支の中でも旅行収支が黒字を牽引しており (第 I-3-7-6 図)、トルコの大きな収入源になっている。旅行収支は、2016 年、クーデター未遂事件が要因で落ち込んだが、その後は回復し、2018 年はサービス収支も事件以前の 2015 年の水準まで戻っている。

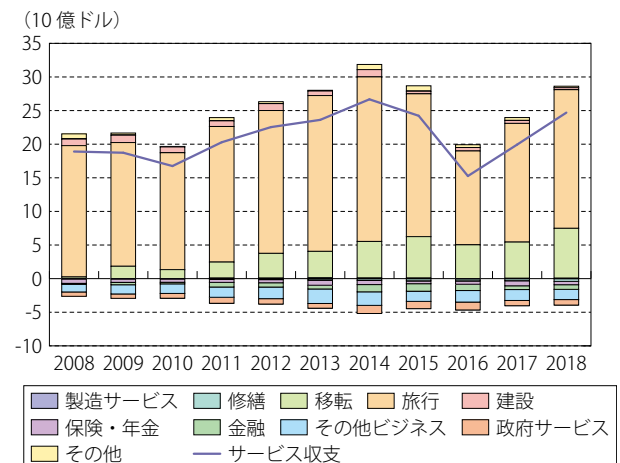
訪トルコ外国人数及び観光収入の四半期ごとの伸び率を見ていく。トルコを訪れる外国人の人数と観光収入の前年同期比の伸び率は 2018 年を通じてプラスで推移しており、トルコ・ショック下でも伸び率は鈍化

第 I-3-7-5 図 経常収支の推移



資料：IMF Dots から作成。

第 I-3-7-6 図 サービス収支の推移



資料：トルコ統計局、CEIC Database から作成。

172 <http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/macro/2018/nishi190312turkey.pdf>

したものの、外国人観光客の人数、観光収入とも増加しており、悪影響は限定的である。逆に通貨安が割安感に繋がり、旅行客の増加にはプラスに寄与したものと考えられる。他方で、トルコ国籍の旅行者（国内旅行）の観光収入の伸び率は、2018年の第3四半期は▲19.9%とマイナスとなっており、通貨下落による雇用悪化など経済悪化が影響していると思われる（第I-3-7-7図）。

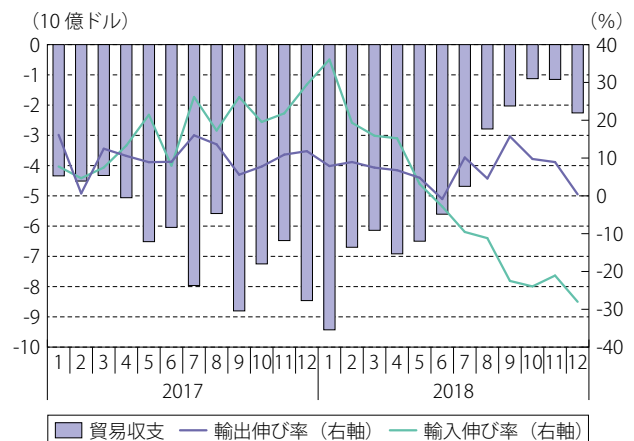
④ 貿易動向

トルコの財貿易収支を見ると、2018年1月までは、旺盛な内需を背景に貿易赤字が拡大傾向にあった。しかし、トルコ・リラが対ドルで下落し始めた2018年2月から次第に輸入（前年同月比）の伸び率が鈍化し始め、2018年12月には同▲28%まで落ち込み、輸出は微増で推移したため、貿易収支の赤字幅は大きく縮小した（第I-3-7-8図）。この背景には、通貨下落による輸入単価の上昇、雇用悪化や物価高騰等による内需の大きな落ち込みがあると指摘されている。

次に、トルコの主要輸出入品目を見ていく。主要輸

第I-3-7-8図

トルコの貿易収支、輸出・輸入の前年同月比の伸び率



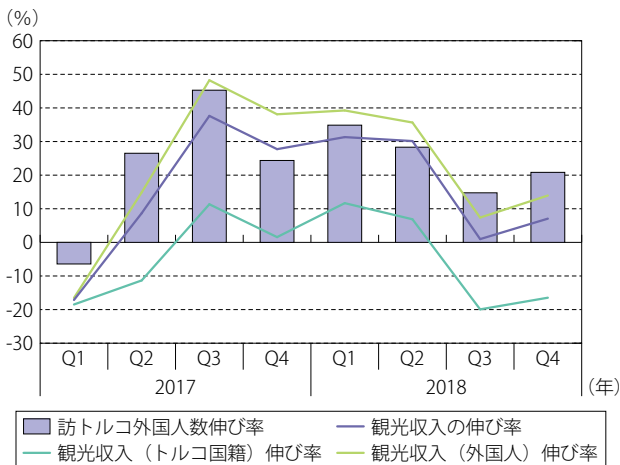
資料：トルコ統計局、CEIC Database から作成。

出品目は、自動車、自動車の部分品、衣類などである。欧州にも近く地理的条件に恵まれるトルコには世界の自動車メーカーの工場が進出しており、現地組み立てを行い自動車の完成車輸出を行っている。また繊維産業はトルコ経済を牽引しており、多くの衣類が輸出されている。その他主要輸出品目としては、天然資源や自動車部品が挙げられる（第I-3-7-9表）。

貿易相手国では、ロシア、中国、ドイツの3か国からの輸入が輸入全体の約3割を占める。地域別に前年同月と比較した輸入額の推移（第I-3-7-10図）を見ると、多くの地域からの輸入が減っているが、特にEUとアジアからの輸入が大きく減っている。輸出については、ドイツ、英国、イタリアを始め欧州に多く輸出しており、地理的に近い欧州との関係の強さがうかがわれる。なお、日トルコ間については、現在、経済連携協定（EPA）の協議が続いており、日トルコEPAが発効されることになれば、日トルコ間貿易の一層の活発化の他、同協定のもとビジネス環境の整備が進められ、二国間ビジネスの円滑化・投資の活発化が期待される。

第I-3-7-7図

訪トルコ外国人人数、観光収入（全体・外国人・トルコ国籍）の前年同期比の伸び率



資料：トルコ文化統計省、CEIC Database から作成。

第 I-3-7-9 表 輸出入内訳 上位品目別及び上位国別・品目別 (2018 年)

輸出品目

| 品目           | 輸出額<br>(10億ドル) | シェア<br>(%) |
|--------------|----------------|------------|
| 乗用自動車その他の自動車 | 12.4           | 7.4        |
| 貨物自動車        | 5.3            | 3.2        |
| 自動車の部分品及び附属品 | 4.5            | 2.7        |

資料：International Trade Center「International Trade Statistics」から作成。

輸入品目

| 品目                            | 輸入額<br>(10億ドル) | シェア<br>(%) |
|-------------------------------|----------------|------------|
| 石油および歴青油（原油を除く）、これらの調製品ならびに廃油 | 12.7           | 5.7        |
| 金                             | 11.3           | 5.1        |
| 鉄鋼のくず及び鉄鋼の再溶解用のインゴット          | 7.1            | 3.2        |

資料：International Trade Center「International Trade Statistics」から作成。

輸出国別・品目別

| 輸出相手国 | 輸出額<br>(10億ドル) | シェア<br>(%) | 主な輸出品目 (HS コード)  |
|-------|----------------|------------|--|
| ドイツ   | 16.1           | 9.6        | 乗用自動車その他の自動車 (8703)、自動車の部分品及び附属品 (8708)、ピストン式火花点火内燃機関のエンジンに専ら又は主として使用する部分品 (8409)、Tシャツ、シングレットその他これらに類する肌着（メリヤス編み又はクロセ編みのものに限る。）(6109)、ジャージー、プルオーバー、カーディガン等（メリヤス編み又はクロセ編みのものに限る。）(6110) |
| 英国    | 11.1           | 6.6        | 貨物自動車 (8704)、乗用自動車その他の自動車 (8703)、金 (7108)、電気絶縁をした線、その他の電気導体及び光ファイバーケーブル等 (8544)、モニター及びプロジェクター並びにテレビジョン受像機器 (8528)  |
| イタリア  | 9.6            | 5.7        | 乗用自動車その他の自動車 (8703)、鉄又は非合金鋼のフラットロール製品 (7208)、貨物自動車 (8704)、ココヤシの実、ブラジルナット及びカシューナット以外のナット (0802)、自動車の部分品及び附属品 (8708)   |

資料：International Trade Center「International Trade Statistics」から作成。

輸入国別・品目別

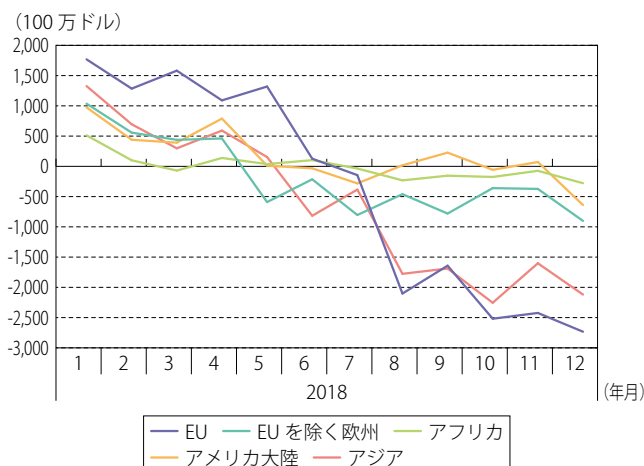
| 輸入相手国 | 輸入額<br>(10億ドル) | シェア<br>(%) | 主な輸入品目 (HS コード)   |
|-------|----------------|------------|---|
| ロシア   | 22.0           | 9.9        | 石油および歴青油（原油を除く）、これらの調製品ならびに廃油 (2710)、石炭及び練炭、豆炭その他これらに類する固形燃料で石炭から製造したもの (2701)、フェロアロイ (7207)、小麦及びメスリン (1001)、鉄又は非合金鋼のフラットロール製品 (7208)                 |
| 中国    | 20.7           | 9.3        | 電話機及びその他の機器 (8517)、自動データ処理機械並びにこれを構成するユニット等 (8471)、合成繊維の長繊維の糸 (5402)、ラジオ放送用又はテレビジョン用の送信機器、レーダー、プロジェクター等の機器に専ら又は主として使用する部分品 (8529)、気体ポンプ、真空ポンプ等 (8414) |
| ドイツ   | 20.4           | 9.1        | 乗用自動車その他の自動車 (8703)、自動車の部分品及び附属品 (8708)、金 (7108)、ピストン式圧縮点火内燃機関 (8408)、医薬品 (3004)  |

資料：International Trade Center「International Trade Statistics」から作成。

第 I 部  
第 3 章

第 I-3-7-10 図

トルコの地域別輸入額の前年同月との差の推移



資料：トルコ統計局、CEIC Database から作成。

## 2. アフリカ

### (1) サブサハラ・アフリカ地域の GDP

サブサハラ・アフリカ地域<sup>173</sup>では、人口の急速な増加とともに、潤沢な鉱物性資源が確認され資源開発が進むなど、経済規模も拡大している。

実質 GDP 成長率は、2009 年の世界金融危機後に一時急減速したものの、2015 年までは年によって多少の変動はあれど 5~7% と総じて高い成長率を維持してきた。2015 年、2016 年には、原油価格など一次産品価格の下落により<sup>174</sup>大きく減速し、その後、2017 年には回復基調に戻ったが、2018 年にかけては再び足踏みをしており 2018 年の GDP 成長率は 3.0% と推計されている（第 I-3-7-11 図）。

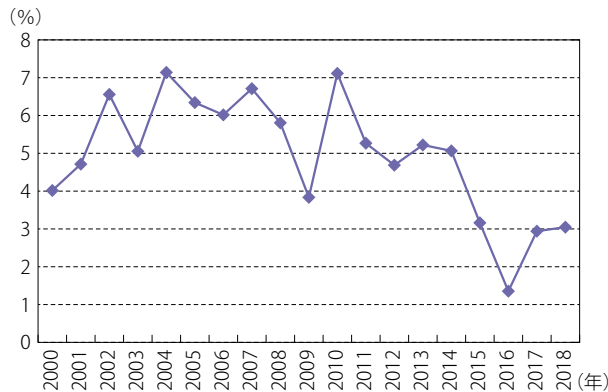
サブサハラ・アフリカ地域の名目 GDP のシェアを見ると、高い順に、ナイジェリア、南アフリカ、アンゴラ、エチオピア、ケニアと続き、ナイジェリアと南アフリカで約半分を占めている（第 I-3-7-12 図）。

### (2) 南アフリカの経済動向

#### ① GDP

南アフリカの実質 GDP 成長率を見ると、2000 年から 2008 年にかけて平均 4.2% と高成長が続き、2009 年の世界金融危機では一時的にマイナスに転じるも、翌年には 3.0% と再びプラス成長に戻った。しかし、その後は総じて

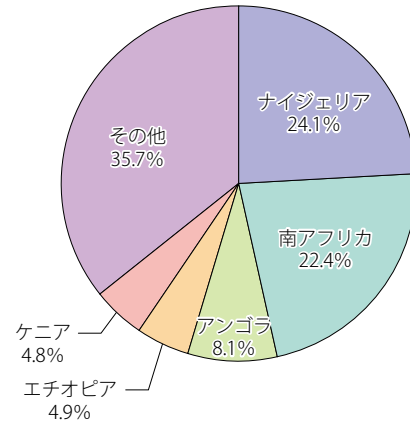
第 I-3-7-11 図  
サブサハラ・アフリカ地域の実質 GDP 成長率の推移



資料：IMF WEO, April 2019 から作成。

第 I-3-7-12 図

サブサハラ・アフリカ地域の名目 GDP シェア (2017 年)



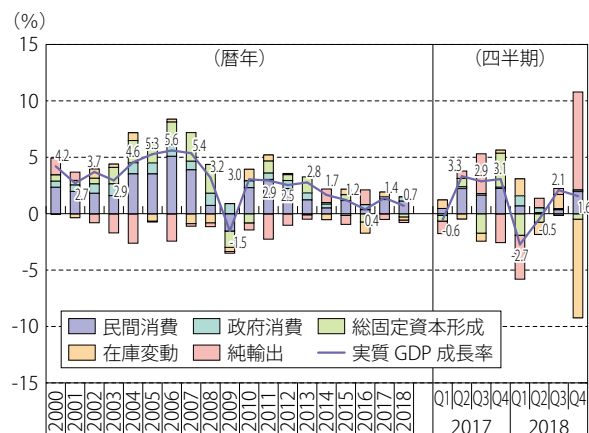
資料：国際連合「National Accounts Main Aggregates Database」から作成。

鈍化傾向になり、2010 年から 2018 年にかけては平均 1.9% と低成長となっている（第 I-3-7-13 図）。

#### ② 産業構造

南アフリカの産業構成を産業別粗付加価値額 (GVA<sup>175</sup>) 比率で見ると、2018 年には第三次産業の割合はおよそ 70% であり、先進国並みの割合となっている。産業別では、「金融業、不動産業及び業務サー

第 I-3-7-13 図 南アフリカの実質 GDP 成長率の推移



備考：南アフリカは、主に国内総支出 (Gross Domestic Expenditure) にて需要項目別の詳細を公表しており、GDP 総額と多少誤差が生じる。  
資料：CEICdatabase、南アフリカ統計局から作成。

173 本項ではサブサハラ・アフリカ地域を外務省の HP に合わせて、アンゴラ、ウガンダ、エスワティニ、エチオピア、エリトリア、ガーナ、カーボベルデ、ガボン、カメルーン、ガンビア、ギニア、ギニアビサウ、ケニア、コートジボワール、コモロ、コンゴ共和国、コンゴ民主共和国、サントメ・プリンシペ、ザンビア、シエラレオネ、ジブチ、ジンバブエ、スーダン、セーシェル、赤道ギニア、セネガル、ソマリア、タンザニア、チャド、中央アフリカ、トーゴ、ナイジェリア、ナミビア、ニジェール、ブルキナファソ、ブルンジ、ベナン、ボツワナ、マダガスカル、マラウイ、マリ、南アフリカ、南スーダン、モザンビーク、モーリシャス、モーリタニア、リベリア、ルワンダ、レソトの 49 カ国を指す。

174 2014 年から 2016 年にかけて原油価格が半値以下に下落したことにより域内産油国であるナイジェリアやアンゴラの国内総生産が減少した。「アフリカの経済成長は急激な減速から回復基調に」(世界銀行 2017 年 4 月)では、(原油価格を含む)一次産品価格の下落によって域内主要国のナイジェリア、南アフリカ、アンゴラの経済が停滞したとしている。

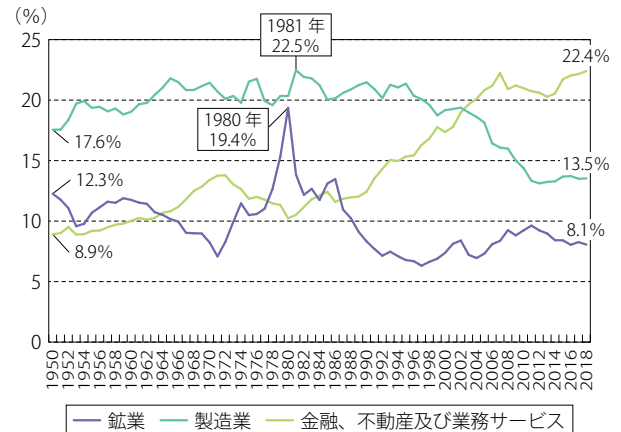
ビス」(以下、金融業とする) 22.4%が最も高く、「卸小売業及び外食宿泊業」15.1%、「政府サービス」16.7%、「製造業」13.5%と続き、「鉱業」は6位の8.1%しかない(図 I-3-7-14 図)。

南アフリカはこれまで鉱業で稼いだ資金を製造業や金融業の発展のために投資してきた。製造業は、成長軌道に乗れなかったものの<sup>176</sup>、金融業はアフリカの金融センターとも言われるほど成長してきた<sup>177</sup>。鉱業、製造業、金融業の成長について、GVA に占める割合の推移で見ていく。1950年と2018年時点で比較すると、金融業は、GVA に占める割合が右肩上がりでも推移しており、同期間 8.9%から 22.4%まで上昇した。製造業は1981年にピークの22.5%となり、その後おおよそ横ばいで推移していたが、1990年代後半から減少している。鉱業は1980年にピークの19.4%まで上昇したが、その後は低下が著しく、2018年に8.1%まで落ち込んでいる。なお、南アフリカの白金、クロム、チタンの生産量は世界第1位であり、鉱物資源の輸出額が全品目の輸出総額の半分を占めており、鉱業はいまだ主要な産業の一つである<sup>178</sup>(第 I-3-7-15 図)。

③ 経常収支

南アフリカの経常収支の推移について見ると、2003年以降赤字が続いている。2016年以降は貿易収支が

第 I-3-7-15 図 鉱業、製造業、金融業の GVA に占める割合の推移

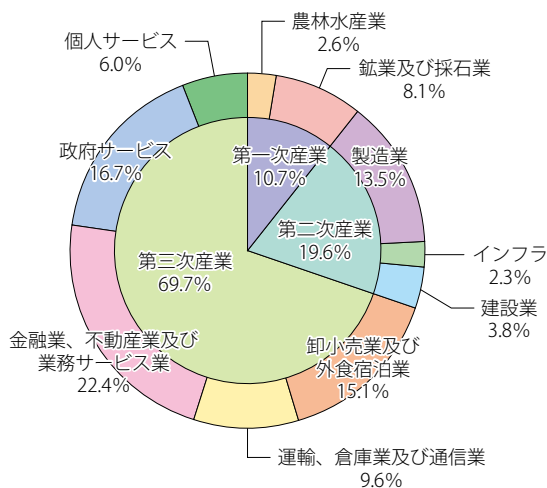


資料：2014年までは South African statistics 2015 から、2015年以降は南アフリカ統計局、CEIC Database から作成。

黒字に転じているが、所得収支が経常収支の赤字幅を拡大させており、2018年には経常収支の赤字額の約9割を所得収支が占めている(第 I-3-7-16 図)。継続した外貨流入がなければ、経常収支の赤字は改善されないが、南アフリカにおいては、実質 GDP 成長率の需要項目別寄与度における固定資本形成が低調である(第 I-3-7-13 図) ことの背景ともなっているが、外国からの直接投資額が十分でない状況がある。南アフリカ準備銀行によると、非居住者による投資がより多様化し、大きな増減がないことから、赤字が固定化していると指摘する。配当金や利子といった所得支払い

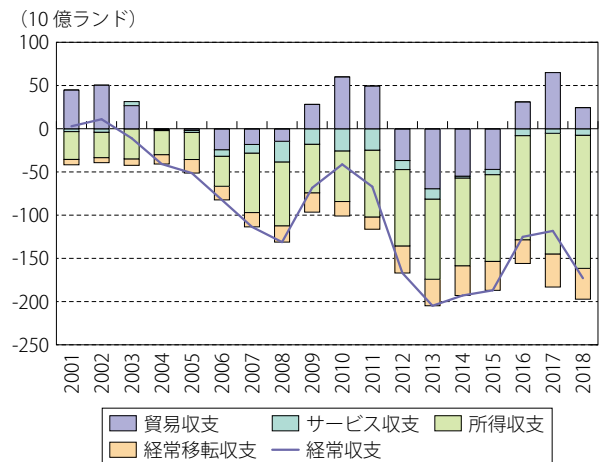
第 I 部 第 3 章

第 I-3-7-14 図 南アフリカの産業別粗付加価値額 (GVA) 比率 (2018 年)



資料：南アフリカ統計局、CEIC database から作成。備考：第一～三次産業の分類は南アフリカ統計局の分類による。

第 I-3-7-16 図 南アフリカの経常収支の推移



資料：南アフリカ統計局、CEIC Database から作成。

175 生産側から推計された実質総付加価値。純間接税に左右される GDP より、月次景気指標に近い動きをされている。  
 176 例えば、ケープタウン大学 (2017) によれば、南アの製造業セクターは GDP 成長率と雇用創出の両面において成果が乏しい “the manufacturing sector has performed poorly, both in terms of GDP growth and job creation.” とされている。(http://www.dpru.uct.ac.za/sites/default/files/image\_tool/images/36/Publications/Working\_Papers/DPRU%20WP201702.pdf)  
 177 野村総合研究所「アフリカの金融セクター」2011年 https://ab-network.jp/wp-content/uploads/2013/12/f2557ddfa5d469d682051b684a0c8910.pdf  
 178 http://mric.jogmec.go.jp/wp-content/uploads/2018/12/trend2018\_za.pdf

が近年大幅に増えている理由は、南アフリカ政府が負債を高い利率で大量に借りていることが要因としている<sup>179</sup>。

④ 貿易動向

南アフリカの輸出入について見ていく。白金、クロム、チタン、ダイヤモンドといった鉱物資源に恵まれる南アフリカは、これらの鉱物資源が主な輸出品目となっている。しかし、資源国でありながら石油に乏しいため、石油を多く輸入している。石油の他には機械類を輸入している。

輸出品目の上位を鉱物資源が占める中、自動車も多く輸出している。南アフリカの自動車産業は1995年9月に始まった自動車産業開発プログラム（Motor Industry Development Programme）により発展し、

生産や輸出を伸ばした。MIDPは2012年まで行われ、プログラム実施期間である1995年から2012年までの間に生産台数は37.6万台から50.4万台まで増加し、輸出台数は1.2万台から27.7万台まで伸びた<sup>180</sup>。南アフリカは2013年には、2020年までの次の自動車政策である自動車生産発展プログラム（Automotive Production Development Programme）を、2018年には2021年から2035年までの更なる計画（South African Automotive Masterplan 2035）を発表し、2035年までに世界の自動車生産高の1%に達すること等を目標に掲げている。貿易の相手国では、輸出、輸入とも上位3か国は中国、ドイツ、米国となっている（第I-3-7-17表）。中国へは鉄鉱などの鉱物資源を多く輸出しているが、欧米諸国や日本、ボツワナ、ナミビアには完成車も輸出している。

第I-3-7-17表 輸出入内訳 上位品目別及び上位国別・品目別（2018年）

輸出品目別（2018年）

| 品目                                 | 輸出額（10億ドル） | シェア（%） |
|------------------------------------|------------|--------|
| 白金                                 | 7.8        | 8.2    |
| 石炭及び練炭、豆炭その他これらに類する固形燃料で石炭から製造したもの | 6.2        | 6.6    |
| 乗用自動車その他の自動車                       | 6.1        | 6.5    |

資料：International Trade Center「International Trade Statistics」から作成。

輸入品目別（2018年）

| 品目                      | 輸入額（10億ドル） | シェア（%） |
|-------------------------|------------|--------|
| 石油および歴青油（原油に限る）         | 10.8       | 11.6   |
| 石油および歴青油（原油を除く）、これらの調製品 | 4.5        | 4.9    |
| 乗用自動車その他の自動車            | 3.9        | 4.2    |

資料：International Trade Center「International Trade Statistics」から作成。

輸出国別・品目別（2018年）

| 輸出相手国 | 輸出額（10億ドル） | シェア（%） | 主な輸出品目（HSコード）   |
|-------|------------|--------|---|
| 中国    | 8.7        | 9.2    | 鉄鉱（2601）、マンガン鉱（2602）、クロム鉱（2610）、フェロアロイ（7202）、羊毛（5101）                             |
| ドイツ   | 7.1        | 7.5    | 乗用自動車その他の自動車（8703）、白金（7110）、遠心分離機並びに液体又は気体のろ過機及び清浄機（8421）、貨物自動車（8704）、貨幣（7118）    |
| 米国    | 6.4        | 6.8    | 白金（7110）、フェロアロイ（7202）、乗用自動車その他の自動車（8703）、アルミニウムの塊（7601）、アルミニウムの板、シート及びストリップ（7606） |

資料：International Trade Center「International Trade Statistics」から作成。

輸入国別・品目別（2018年）

| 輸入相手国 | 輸入額（10億ドル） | シェア（%） | 主な輸入品目（HSコード）   |
|-------|------------|--------|---|
| 中国    | 17.1       | 18.3   | 電話機及びその他の機器（8517）、自動データ処理機械等（8471）、印刷機、その他のプリンター、複写機及びファクシミリ等（8443）、その他の履物（6402）、履物（6404）             |
| ドイツ   | 9.2        | 9.9    | 乗用自動車その他の自動車（8703）、自動車の部分品及び附属品（8708）、医薬品（3004）、遠心分離機並びに液体又は気体のろ過機及び清浄機（8421）、コック、弁その他これらに類する物品（8481） |
| 米国    | 5.5        | 5.9    | その他の航空機並びに宇宙飛行体及び打ち上げ用ロケット（8802）、自動車の部分品及び附属品（8708）、医療用又は獣医用の機器（9018）、医薬品（3004）、航空機等の部分品（8803）        |

資料：International Trade Center「International Trade Statistics」から作成。

<sup>179</sup> <https://www.resbank.co.za/Lists/News%20and%20Publications/Attachments/8886/05Crowding%20out%20%E2%80%93%20diagnosing%20South%20Africa%E2%80%99s%20stubborn%20current%20account%20deficit%20%E2%80%93%20January%202018.pdf>

<sup>180</sup> [https://www.meti.go.jp/medi\\_lib/report/H28FY/000785.pdf](https://www.meti.go.jp/medi_lib/report/H28FY/000785.pdf)

南アフリカの貿易の地域別のシェアを2001年と2018年で比較すると、2001年では輸出、輸入ともにEU加盟国とその他先進国で約7割を占めていた。ところが2018年には4割ほどまでに低下し、その代わ

りCIS諸国やASEAN5、サブサハラ・アフリカ、その他新興・途上国のシェアが上昇しており、南アフリカの貿易相手地域が広まったことがうかがえる（第I-3-7-18表）。

第I-3-7-18表 輸出内訳 地域別（2018年）

輸出内訳 地域別

|            | 2001年シェア (%) | 2018年シェア (%) |
|------------|--------------|--------------|
| EU加盟国      | 32.9         | 20.3         |
| CIS諸国      | 0.1          | 0.6          |
| ASEAN5     | 1.9          | 2.6          |
| 中南米カリブ諸国   | 2.2          | 1.4          |
| 中東・北アフリカ   | 2.3          | 3.4          |
| サブ・サハラアフリカ | 14.7         | 24.5         |
| その他新興・途上国  | 4.0          | 16.0         |
| その他先進国     | 37.7         | 21.8         |
| その他        | 4.1          | 9.5          |

資料：International Trade Center「International Trade Statistics」から作成。  
備考：国・地域の分類はIMFの分類による。

輸入内訳 地域別

|            | 2001年シェア (%) | 2018年シェア (%) |
|------------|--------------|--------------|
| EU加盟国      | 39.2         | 27.6         |
| CIS諸国      | 0.2          | 0.6          |
| ASEAN5     | 3.0          | 6.2          |
| 中南米カリブ諸国   | 4.0          | 3.2          |
| 中東・北アフリカ   | 12.3         | 9.6          |
| サブ・サハラアフリカ | 2.7          | 10.4         |
| その他新興・途上国  | 5.6          | 23.5         |
| その他先進国     | 30.0         | 15.5         |
| その他        | 3.0          | 3.0          |

資料：International Trade Center「International Trade Statistics」から作成。  
備考：1. 国・地域の分類はIMFの分類による。

2. 輸入相手国に南アフリカがあったが、再輸入とみなされるためシェアからは除外。